

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 二兎を狙い（1年生）、二兎を追い（2年生）、二兎を獲る（3年生）大阪で一番元氣のある学校 ～希望進路の実現 100%と自主活動への取組み 100%～
- 1 第一希望の進路を一段高いレベルで実現できる確かな学力の養成
 - 2 さまざまな自主活動を体験する中で、生徒ひとりひとりが授業にはない「自主活動における学びの魅力」を発見し、発信していける学校
 - 3 グローバルな視点を持ち高い志を抱いて社会に貢献する人材の育成
 - 4 芸能文化の学びの中で新たな自分を発見し、大阪の文化の発展に寄与できる人材の育成
 - 5 中学生が“ヒガスミ”を体験・体感・実感し適切に進路選択できる広報の展開

2 中期的目標

- 1 第一希望の進路を一段高いレベルで実現できる確かな学力の養成
 - (1) 第一希望の進路を実現が叶うように、生徒が生き生きと授業に取り組む学校をめざす。
 - ア 生徒が生き生きと授業に取り組む授業づくりのために、研究授業、学校教育自己診断、授業アンケート等を効果的に活用する。
 - イ ICTを活用した授業を国語、地歴・公民、数学、理科、英語、体育、芸術で行い、第一希望の進路実現に求められる認知的学力と思考力・創造性など非認知的学力を育成する。
 - ウ 新学習指導要領を踏まえ、習熟度別授業、選択科目の充実を図る。
 - エ 学習習慣の確立のために、学校組織として年間を通じた自習室運営、長期休業中の勉強合宿の実施に取り組む。
 - オ 家庭学習習慣の確立のために各教科が連携を取って課題を作成する。また、家庭学習計画を生徒に作成させる。
 - (2) 当たり前のことが当たり前でできる生徒を育成し、学力向上の土台作りをする。
 - ア 遅刻を少なくするなど学習の土台となる生活習慣の確立及び自律的で規律ある生活態度の確立に全教職員が連携して取り組む。
 - イ 生徒が心身の健康を保ち安全で安心な学校生活を送れるよう、学校保健の取組みの充実を図る。
 - ウ 生徒が自己や社会の在り方に関心を持ち、考え抜く力を養うための方法として読書に取り組めるよう、図書館の充実と読書啓発を進める。
 - ※ 生徒向け授業アンケートにおける生徒取組度（平成 25 年度アンケート 4 段階評価で 3.10）を平成 28 年 3.20 を目標とする。
- 2 さまざまな自主活動を体験する中で、生徒ひとりひとりが授業にはない「自主活動における学びの魅力」を発見し、発信していける学校
 - (1) 生徒会活動（行事）を充実する。
 - ア 体育祭を本校生徒会における最大の行事として位置づけ、本校独自の「学年縦割り」と「応援」「アトラクション」「マスコット」「スタンド」の活動の中で上級生が下級生を指導する体制を維持し、よき伝統が継承されるようにする。
 - イ 文化祭における 3 年生「コーラスコンクール」の継承とともに、1・2 年生の取組みの充実を図る。
 - ウ 生徒が積極的にまた安全に部活動に取り組めるよう、指導者の確保や施設設備の整備等の環境整備に努める。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断における学校満足度を 100%に近づける。
 - (2) 外部との連携とボランティア活動を充実する。
 - ア チャリティーマラソンの実施（陸前高田高校とネパールへの支援）、異校種間の交流・連携、近隣の施設や地域の催しへの参加、クリーンアップキャンペーンなど、様々な外部との交流・連携事業やボランティア活動を積極的に推進する。
 - ※ ヒガスミの行事への保護者の来場者・参加（平成 25 年度体育祭・文化祭 計 4,112 名）をさらに増やす。
- 3 グローバルな視点を持ち高い志を抱いて社会に貢献する人材の育成
 - (1) 他者への思いやりと貢献意欲を強く持ち、行動へ移すことのできる、国際社会で必要とされる人材を育成する。
 - ア 海外から見た日本を知る機会や異文化を体験的に知る機会として、また、母語以外の言語によるコミュニケーションを体験する機会として、平成 26 年入学者から 3 年間台湾への修学旅行を実施することとし、3 年目にその検証を行う。
 - イ 国際交流委員会を核として、生徒の海外研修を含め海外の学校との交流活動を推進する。英語に特化した研修と異文化体験を 1 年おきに行う。
 - ウ 芸能文化科の生徒を中心に据えて、外国の生徒に日本の伝統的文化を体験してもらう機会を持つだけでなく、外国の教育関係者に日本（特に大阪）の伝統文化教育の意義と成果を積極的に発信する
 - ※ 年間 5 回程度の国際交流を継続して実施する。（平成 25 年度 5 回）
 - エ 国際社会における意思疎通の手段の一つとして重要な位置を占める英語でのコミュニケーション能力を高めるため、授業・補習にとどまらず、朝の HR を利用した英単語テスト、英語学力調査、T-NET の効果的な活用など様々な取組み等を積極的に推進する。
 - ※ 英語学力調査に平成 28 年度の 1 年生から取組み、平成 29 年から 1・2 年生全員受験、各技能 2 段階向上を目標とする。
 - (2) 「総合的な学習の時間」と LHR 等を活用して「志学」の全学年実施を行うなど、キャリア教育と人権教育を一層推進する。
 - ア 生徒のキャリア意識を高め第一希望の進路を明確にするために、大学教員による模擬授業を実施する。
 - イ 生徒や保護者を対象とした府内外の大学見学会や大学説明会を実施する。
 - ウ 生徒の自立的・自律的学習のための環境を整える。
 - エ 外部機関を活用して効率的に情報収集、情報分析を行うとともに、志望校情報交換会などの取組みを行い、生徒支援のための情報共有を進める。
 - オ 「志」において、プレゼンテーション、現役社会人の講義、社会の第一線で活躍する卒業生の職場訪問などを行い、社会人としての将来を思い描かせて高い志をもつ姿勢を身につけさせるとともに、自己の希望進路実現のためのロードマップを描かせる。
 - カ 学力診断テストの結果分析会、志望校検討会を実施するなど指導方針の共通理解を形成しより効果的な進路指導を確立する。
 - ※ 生徒の希望する進路の実現率（平成 24 年度 83%）をさらに上げ、平成 28 年度 90%をめざす。
- 4 芸能文化科の学びの中で新たな自分を発見し、大阪の文化の発展に寄与できる人材の育成
 - (1) 芸能文化科の取組を核として、国際社会において、日本の伝統や文化を積極的にかつ自信を持って発信し交流できる人材を育成する。
 - ア 芸能文化科の専門科目の一層の充実を図るために、特別非常勤講師や大阪芸術大学、近畿大学等との連携を強化するとともに、新たな連携先を発掘していく。
 - イ 様々なメディアを通じて、芸能文化科の教育内容や外部連携の内容が伝わるよう情報発信を行う。
 - ウ 芸能文化科が長年に渡って行ってきた社会貢献により構築したネットワークを活用して、応援団のネットワーク作りを推進する。
 - ※ 年間を通じた大学教員による授業、外部との連携事業（平成 25 年度 5 事業）を維持拡充する。
- 5 中学生が“ヒガスミ”を体験・体感・実感し適切に進路選択できる広報の展開
 - ア HP の充実やマスメディアの活用による広域的な広報活動を行い「入りたい学校」としての存在を示す。
 - イ 体育祭、文化祭チャリティーマラソンの一般公開、授業公開を行い、日頃協力いただいている地域の方々や本校への入学を希望する小中学生への情報発信をはかる。
 - ウ 小高連携授業など和文化的の普及継承に取り組む。
 - エ 「学校説明会」において、模擬授業を行い本校の授業を体験する機会を提供するとともに、ICT 機器を活用した説明を行い、本校の学校生活動を通じていかに生徒の自主性が養われ、その自主性が学習活動における頑張りにつながっているのかを積極的に発信する。
 - オ 生徒と教職員が一丸となって学校説明会や中学校訪問等を行う。
 - ※ 学校説明会への来場中学生数（平成 25 年 12 月末時点対募集人員比 3.1 倍）を更に増やす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】 ・生徒向けでは「授業はわかりやすくなる」79% (H27 は 81%)、「教え方に工夫している先生が多い」76% (H27 は 74%) とほぼ横ばいであるが、教員向けの結果で、「思考力を重視した問題解決的な学習指導」の項目で肯定的 77% (H27 は 84%) という低下が見られたのは、今年度アクティブラーニングに意識的に取り組む授業研究を行ったためと思われる。問題意識を生かし引き続き授業研究に全体として取り組んでいきたい。</p> <p>【生徒指導】 ・教員向けで「緊密な家庭連携」89%でありながら保護者は「家庭連絡がきめ細かく相談にも応じてくれる」は 75%、教員向けで「教育相談体制が整備され生徒は担任以外とも相談できる」が 89%でありながら生徒は「担任以外にも相談できる」は 65%であった。家庭連携や教育相談体制についてさらに検討する必要がある。</p> <p>【学校運営】 ・学校行事については、生徒向けが「盛んで楽しく参加している」が 94%、保護者も 94%、教員も「魅力ある行事のために工夫・改善」が 91%と三者ともに評価が高く本校の大きな特徴と言える。一方、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ」が生徒向け 70%、教員向け 68%と他の項目に比べ低いことから、人権や他者との関わりについて学ぶ機会を増やす工夫が望まれる。</p>	<p>第 1 回 (7/23) ○平成 28 年度学校経営計画について ・進路の取組み、ボランティア活動、スタディーツアーなど取組みをさらに進めて学校の魅力を高めてほしい。 ・ICT を活用した授業やアクティブラーニングなど、生徒が能動的に参加するような授業づくりに努めてもらいたい。</p> <p>第 2 回 (11/23) ○研究授業について ・授業研修や、研究授業の教化、ICT 活用に向けての検討など、充実した授業のために努力を続けてもらいたい。 ○教員研修・育成について ・ベテラン、ミドル、若手がそれぞれ「チーム学校」をめざし実践面で力を伸ばしてほしい。</p> <p>第 3 回 (2/1) ○平成 28 年度の振り返りと次年度に向けて ・アクティブラーニングと ICT の研究に取り組んだのは素晴らしい。これらの活用は避けて通れない時代。取組みの前進を。 ・英語教育については大きく変化している。さらに先取の取組が求められている。 ・読書活動活性化の工夫を評価する。「書く力」の育成に努める必要がある。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	進捗状況
<p>1 第一希望の進路を実現できる確かな学力の養成</p>	<p>(1) 第一希望の進路を実現する授業づくり</p> <p>(2) 学力向上の土台となる心身の健康と生活習慣・学習習慣の確立</p>	<p>(1) ア・生徒の学ぶ意欲・態度の育成のために、授業の最初に授業態度と今日の授業内容の確認を行うとともに、授業の最後に今日のまとめを行う。 ・生徒が生き生きと授業に取り組む授業づくりのために、学校教育自己診断、授業アンケート等を効果的に活用する。 イ・全教科で研究授業を行い、生徒が生き生きと学ぶ授業づくりに取り組む。</p> <p>(2) ア・S.H.R. を生活習慣、学習態度、違いを認め合える豊かな心の育成のための重要な時間と位置付け、学力向上の土台となる健康な心身と規律ある学校生活づくりを行う。 ・年に複数回の保護者懇談及び随時の生徒面談、必要に応じた家庭訪問を行う。 ・担任会議及び定期考査期間や木曜放課後に行うに学年団会議で生徒情報を共有するとともに、生徒理解を深める校内研修を実施する。 イ・魅力ある図書の購入、展示の工夫、図書館通信の発行など図書館の充実により、読書への意欲を高める。 ・平成 27 年度から取組みを始めた読書通帳活動をさらに推進し、図書の貸出冊数を引き上げる。</p>	<p>(1) ア・生徒向け授業アンケートにおける生徒取組み度、平成 25 年度アンケート 4 段階評価 3.13 以上を目標とする。</p> <p>イ・ICT を活用した授業を中心に、全教科で研究授業・研究協議を実施する。</p> <p>(2) ア・過去 5 年で最も少なくなった遅刻 (3643 回) 及び欠席 (3382) を更に 5% 少なくすることを目標とする。</p> <p>イ・図書館の貸出冊数を約 900 冊から 10% 強増やし、1000 冊を目標とする。</p>	<p>(1) ア・H28 授業アンケートの結果、生徒取組みの項目の評価は 3.26。(◎)</p> <p>イ・授業改善に係る校内研修の上、全教科で、各教科ごとの事前・事後協議を含め研究授業を実施。(◎) ・第 1 回学校協議会での提言を受け、校内「ICT 設置検討 WT」を立ち上げ、近隣の既設置校や先進校を視察し、導入に向けて PTA 等に働きかけている。(◎)</p> <p>(2) ア・SC により生徒理解・支援のための研修を実施。遅刻回数は年間 4503 回、欠席回数は 4096 で、どちらも増加した。(△)</p> <p>イ・図書館通信、読書通帳の発行などの工夫を重ね、貸出数は年間 1260 冊。(◎)</p>
<p>2 「魅力」を発見し、発信している学校</p>	<p>(1) 自主活動の更なる充実</p> <p>(2) 外部との連携とボランティア活動の充実</p>	<p>(1) ア・体育祭応援団の夜間校外活動の根絶を維持し、生徒に集中と切替の意識を徹底させるとともに、生徒会執行部、団活動(応援、アトラクション、マスコット、スタンド)、体育祭実行委員会の活動を通じて、綿密な計画と準備過程の大切さを体感させる。 イ・体育祭、文化祭の活動を様々な場面を通じて発信し、大勢の観客に来ていただくことによって、本校の自主活動のよさを理解していただくとともに生徒に成功体験をさせる。</p> <p>(2) ア・芸能文化科生徒及び部活動所属生徒による小学生との交流授業や老人介護施設訪問、チャリティーマラソン、小中学生対象理科実験教室、クリーンアップキャンペーン等を継続して行う。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断における体育祭・文化祭、学校行事の項目の肯定的回答 (H27 年度 94%) を維持する。</p> <p>イ・体育祭及び文化祭の来校者数 4000 名以上(直近 2 年と同水準)を維持する。</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断におけるボランティアに関する項目の肯定的回答(平成 27 年度 93%) を 100% に近づける。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断における学校行事の項目の肯定的回答は、94%。(○)</p> <p>イ・体育祭・文化祭の来校者数は、概算 3500 名程度。(△)</p> <p>(2) ア・駒川商店街での街頭募金、小学生との交流授業や老人介護施設訪問、近隣保育園との交流、地域連携活動、小中学生対象理科実験教室、クリーンアップキャンペーン、チャリティーマラソンを実施したが肯定的回答は 87%。(△)</p>

府立東住吉高等学校

<p>3 グローバルな視点を持ち高い志を抱いて社会に貢献する人材の育成</p>	<p>(1) 国際社会で必要とされるコミュニケーション能力と携帯・インターネットに関する人権意識の育成</p> <p>(2) 希望の進路を実現する進路指導の確立</p>	<p>(1) ア・国際社会の現状を知るとともに、意思疎通の手段としての英語でのコミュニケーション能力を高める機会として、ニュージーランド・スタディーツアーを実施する。 ・英語でのコミュニケーション能力を高めるため、朝の S.H.R. を利用した英単語テストを行うとともに英語学力調査を1年生で実施する。</p> <p>イ・携帯・インターネット使用上の人権啓発を含め、他人に優しく違いを尊重できる豊かな人間性の育成のために、講演会等の取組みを進める。</p> <p>(2) ア・志望校情報交換会を前期・後期に開催して、生徒の志望校に関する情報を共有し、第一希望の進路実現を学校として支援する。 ・大阪府内の高校卒業生数が増加する中で現役での希望進路の実現に実績を向上させてきたこと及び今後更に大阪府内の高校卒業生数が増加することを踏まえ、希望進路の現役での実現と現役合格できなかった生徒が難関国公立大学に合格できる基礎学力の養成をめざす。 イ・100 時間学習マラソン、宿泊合宿、講習等の募集についてメールを活用して保護者に情報を届ける。 ・30 時間学習マラソンと 100 時間学習マラソンの参加者を、事前審査の基準を落とさずに増やす。 ・同時期に部活動参加者や芸能文化科の生徒が自学自習の習慣を養える場所を設けるとともに、部活動前後の自習室活用の取組みを行う。</p>	<p>(1) ア・英語学力調査の平均スコアで大阪府の CAN-DO リストの第 3 段階を目標とする。</p> <p>イ・学校教育自己診断における「違いを認め合い成長できる」の項目の肯定的回答(平成 27 年度 83%)を増やす。</p> <p>(2) ア・過去 5 年の実績と今後の高校卒業生数の動向を考慮し、下記の人数を目標とする。 <現役及び既卒> 難関国公立大学 1 名 <現役> 国公立大学 16 名 難関私立大学 105 名 中堅私立大学 155 名 イ・学習マラソン参加者(平成 26 年度 48 名)の増を目標にする。</p>	<p>(1) ア・英語語学研修として約 2 週間のニュージーランド・スタディーツアーを 7 月下旬～8 月上旬に実施(生徒 53 名参加)。生徒の事後アンケートでは「英語の学習意欲が非常に喚起された」結果が出た。 ・早朝英単語テストは継続的に実施。成績優秀者を半期ごとに表彰(PTA のサポート含む) イ・学校教育自己診断での肯定的回答は 85%と増。(○)</p> <p>(2) ア・大学入試センター試験出願数 258 名と過去最高。 <合格数> 国公立大学 神戸大、奈良県立医大、東京芸術大など 38 名(現役 22 名) (←H28 年度入試現浪計 26 名) 難関私立大学 250 名(←H28 年度計 226 名)(◎) イ・学習マラソン参加者は 79 名と増には届かず。(○) ・自習室は継続して 7:00～19:00 開室(水曜 18:45 まで)。(土曜は 9:00～17:00) ・年末からは予備校講師による土曜講習を PTA の協力により実施予定。宿泊勉強合宿は 3 月末に実施。</p>
---	--	---	---	--